人生や会社にも四季がある

易経で指南　竹村亜希子さん(53)

社長がぞろぞろやって来る。いつ引退すべきか。次期社長を誰に任せるべきか。

名古屋市内の古びたマンションの一室で、占い師竹村亜希子さん(五三)は相談を受ける。中国の古典で時の専門書といわれる「易経」をベースにして占う。

「物事にはバランスがある。季節が春夏秋冬と移り変わるように、人生や会社にも四季がある。依頼人がどの時期にいるかを分析し、これから起こることを予測する。超能力ではありません」

占いだけで行動を決めようとしている人にはこう言う。

「占いは信じるものでなくて使うもの。自分で決めた答えがあってこそ生きる。考えてから来てください」

名古屋市に生まれ、地元の高校を卒業した後に、銀行へ就職。結婚し、三人の子どもを育てた。読書が好きで小学生の時は「漢字博士」と呼ばれ、姓名判断に夢中になった。主婦業と両立してできる仕事として占いを思い付き、一九七八年に「占いの玉手箱」を設立した。

易経の本を読む占い師の竹村亜希子さん＝名古屋市東区の「占いの玉手箱」で（榎戸直紀撮影）

好景気のバブル期に「事業を興すのに最適」と占った人たちが、現在の不況であえいでいる。「私が出した答えは正しかったんだろうか」と悩んだ。それからは「いちげんさん」を断り、依頼人一人当たりに費やす時間を増やして多角的に占うことにした。相談に応じられる人数が減り収入は減少したが、すべてを出し切っている達成感がある。

毎月一回、約七百人に向けて易経についての無料メールマガジンを送信する。易経についての解説書も書き終え、出版も間近。易経の「知恵」を多くの人に伝えたいという思いで、これまで占いと向かい合ってきた。

最近は長引く不況に苦しむ経営者の相談が多い。

「冬の次に必ず春がくると分かっていれば、寒さは我慢できる。土砂降りの雨でも傘を差せばぬれなくても進める」。こう伝えながら、易経の「伝道者」を目指す日々だ。

（長田弘己）